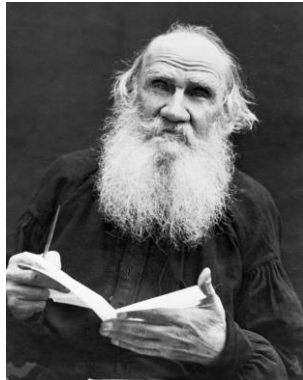


『Mind Charging』

第 34 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 19 日

トルストイの名言



If you want to be happy, be.

幸せになりたいのなら、なりなさい。

まず、幼少期のトルストイがあまりに悲しすぎるので紹介します。2歳の時に母親を亡くし、9歳の時に父親を亡くし、祖母に引き取られたものの、その翌年に祖母も亡くしてしまいます。その後、父親の妹が後見人になったものの、しばらくして他界…。最終的に叔母に引き取られたのですが、『こんなことがあっていいのか』と思うほどの人生です。

大学時代は遊びに目覚めてしまい成績不振に。学部変更などの努力もむなしく最終的に中退。仕事を始めるも、挫折の連続で全てうまくいかなかったようです。無理もないと思う部分もありますが、幼少期の出来事がモチベーションの維持に影響したのかもしれない。しかし、最終的に小説家や思想家として世に名を残すことになったわけですから、彼の努力と人間の強さを感じます。挫折や失敗も含め、やはり人生に無駄なことなんてありませんね。

今回の『幸せになりたいのなら、なりなさい』という言葉だけを聞くと、冷たい言い方になりますが、彼の生い立ちや人生を知てみると、逆に優しさや説得力を感じます。そして、もう少し早く花を咲かせることができれば、次はもっと素敵な花を咲かせられたかもしれないという『遅咲き』だった彼の思いかもしれません。課題をひとつクリアすればすぐにまた次の課題が生まれるように、頑張って目標を達成すれば次の目標を設定することができ、さらに飛躍するチャンスを得ることができるのです。

美しい花を咲かせるために、太陽の光をたくさん浴びさせる、鉢を変える、土を手入れする、水や肥料をやるなどの『育てる』作業は、人生の中で経験を積むことや、動くか動かないかに関わらず転機を活かすことなどの『挑戦と努力』と同じです。人生は一度きりですが、花は一度しか咲かないわけではありません。次々に綺麗な花を咲かせて人生を明るく素敵なものに育てていきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ〔ユリウス暦 8 月 28 日〕 - 1910 年 11 月 20 日〔ユリウス暦 11 月 7 日〕は、帝政ロシアの小説家、思想家で、フョードル・ドストエフスキー、イワン・ツルゲーネフと並び、19 世紀ロシア文学を代表する文豪。英語では名はレオ(Leo)とされる。代表作に『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』『復活』など。文学のみならず、政治・社会にも大きな影響を与えた。非暴力主義者としても知られる。(Wikipedia 参照)